

三加和
中学校
学校たより

磨きあう

21限目

3月15日(金)

あこがれの先輩とは？

先週卒業式があり、3年生が旅立っていきました。1よいは2年生は最上級生となり、1年生は先輩としての立場になってきます。そこで、今回は先輩というイメージについて話をしたいと思います。私は、小中高とサッカーをしていて、よく全国大会に出場する有名なチームに所属していました。当然、練習も厳しければ、先輩たちも厳しかったです。中学生ともなると、1つ上の先輩はもろ3人のことですが、2つ上の先輩ともなると、まさに雲の上の存在で、話しかけることもできないような上下関係でした。事実、その一番恐ろしかったのは、親でも先生でも不良でもなく、サッカー部の先輩でした。**『先輩の言葉は絶対であり、何者にも優先する』**という状況で、先輩たちに指導され、鍛えられていました。しかし、そんな状況にもかかわらず、私たちの中には、不思議と先輩に対して「あかつく？」とか「好かん？」といった悪い感情を持つ人はいませんでした。それはなぜだと思いますか？

理由は簡単です。先輩たちがみんな、サッカーに対して真剣に取り組む、私たち以上に練習に励んでいたからです。先輩たちは、**私たちに厳しかった**のですが、**それ以上に自分たちに厳しかった**のです。それはサッカーに対する姿勢だけでなく、日常生活や学習に対してもそうでした。悪さをすればもろ3人のこと、



成績がおちれば、練習には参加させてもらえない。行っていた学校は、県内でも名をとどろかせるほど荒れていた学校で、校内暴力も真盛りでした。先輩たちはぶれることなく、正しいことを自信もって行い、間違っていることは間違っているとして、周りに流されずに過ごしていました。また、私たちができないことに対しては、丁寧にわかりやすく一生懸命に教えてくれ、逆にできることをしなかったり、間違えたことをしたりした時には、それはそれは尋常じゃないくらい怒られました。だからそういった先輩の姿を見て、『先輩たちはすごいな』『自分も先輩たちみたいになりたいな』とあこがれていました。

2年生はすでにそうですが、1年生の皆さんも、もうすぐ「先輩」になります。皆さんの姿は後輩の目にどう映るでしょうか？先輩として、どんな三加和中生の後姿を、今の6年生に見せていくのでしょうか？朝から正門一礼をして登校している人がいる、私が気づいていなくても、大きな声であいさつしてくれる人がいる、荷物を運ぼうとしたら、さっと寄りきて「持て行きます」と声をかけてくれる人がいる、みんなを楽しめるような企画を考えて「こんなことしたいんですけど」と提案しに来てくれる人がいる。もうすでに**『あこがれの先輩』**として行動できている人もいれば、「自分には、こんなことが足りないな...」と感じている人もいます。はじめから完璧な先輩なんていりませんよ。でも、そうになりたいと思えば、自分を高めていけば、少しずつ理想の自分に近づいてきます。尊敬されるか、あきれられるかは皆さん次第です。もっと自分に**自信を持って、そしてさらに自分に厳しく、自分を磨き上げる『あこがれの先輩』**となりたいと思います。



この年間、保護者の皆様には、学校教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。学校の対応に色々と思うところがあつたかと思いますが、厚意的に協力、理解をしていただきありがとうございました。

